

「光の道」構想に関する意見

意見提出元	個人
意見項目	意見内容
1. 超高速ブロードバンド基盤の未整備エリア(約10%の世帯)における基盤整備の在り方についてどのように考えるか。	<p>採算が取れないところが残っているという現状を考えれば、光ファイバーを敷設するよりも、BWAを活用すべきである。インフラのコストを考え、経済性に見合った環境を提供する必要がある。</p> <p>民間にサービスを提供させるためには、行政が利活用を必須とするサービスを提供してゆく必要がある。特に現在サービスが利用できないところは、過疎地やへき地であると想像されるので、従来の支援に加えてICTを利用した地域コミュニティの活性化などの政策を推進するという形でサービス提供の支援をするなどの方法が重要であると考えます。</p>
2. 超高速ブロードバンドの利用率(約30%)を向上させるためには、低廉な料金で利用可能となるように、事業者間の公正競争を一層活性化することが適当と考えられるが、NTTの組織形態の在り方も含め、この点についてどのように考えるか。	<p>利用者からみれば、通信サービスは、端末、回線、サービスと分離して競争を促進すべきであり、議論されている内容は利用者の視点に立っていない。通信各社が回線とサービスをセット販売している点が問題で、回線料金を当てにして端末料金やサービス料金を割り引くという形が多様なサービスの競争、進展を阻害している。回線料金が最重要で、ユーザが利用するサービスを付加的なものと考えていることが問題で、この考え方ではいつまでも多様なサービスは生まれません。多くのサービス業者が参入できる環境を作ることが利用率の向上を目指す上で最重要であると考えます。</p>